

第58号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011

印刷：重富オフセット印刷

# 有明高専だより

## 第二十三回入学式式辞

正門の満開の桜の花が朝陽に一段と映える本日、後援会長をはじめ来賓各位、御父兄の皆様、教職員一同参列のもとに、本校第二十三回入学式を挙行し、高度の実践的技術者を目指す一六一名の新入生を、福岡・熊本の両県をはじめ佐賀・長崎などの各県から迎えることができるところであります。本年の入学試験は厳しく、志願者も慶びとするとところであります。五三一名の中から諸君は選抜されました。諸君のこれまでの勉学に敬意を表すると共に、御父兄の皆様にも心から祝意を表する次第であります。

### 本校の歴史

高専制度は昭和三十七年に発足し、本校は第二期校として二十八年に、機械・電気・工業化学の三学科で創立の後、四十三年に建築学科が増設され、これまで十八回の卒業生合計二、二〇五名を広く産業界・官界・大学などに送り出して参りました。昭和五十八年秋には創立二十周年記念の式典及び事業が、後援会及び同窓会の御援助のもとで行われました。この二十周年を期して施設設備などが格段に充実した時期に、諸君を新入生として迎えることが出来たわけでありませぬ。

### 高専制度

高等専門学校教育の目的は、学校教育法に「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養成する」とあります。周知のとおり、大学工学部は、主にアカデミック・スタッフ(理論・研究型の技術者)の養成を目指していますが、高専は、大学受験や偏差値教育に煩わされない五年間の一貫教育によって、大学学部卒と同程度の専門の学力と知識に加えて実験実習に力を注ぎ、高度の実践的技術者(プラクティカルエンジニア)を養成する高等教育機関であります。高専はかつての風評のような中級技術者の養成を目指しているものではありません。国家公務員採用試験の受験資格においても、高専卒は大学卒と同じに優遇されています。

### 高専の評価・留学生

これまでの全国高専卒十二万人に対する社会的平均的評価は高く、定着して参りました。これは求人倍率の高いことから容易に理解されることでもあります。また高専では五十八年度から外国人留学生を受入れており、昭和六十年度は十八高専で九十五名が在学することになりました。日本の留学生受人数は現在一、二万人であります。二十一世紀初めには西欧諸国並み

の十万人が目標とされていますから、諸君の在学中には、本校にも留学生が編入して来ることになると思えます。諸君の中から選ばれた数名のチューターだけでなく、全校学生一人ひとりが教育の国際協力の一端を担うこととなります。このように、留学生に対してだけでなく、技術の分野・日常生活の上でも、自己中心で物事を考えたり行動をすることなく、常に「周りの人を大切にの心」また、「周りの人の心ゆとり」をもつことが大切であります。

### 社会の期待

さて、先端技術・従来型産業を問わず、技術は限りなくその開発が急テンポで進みます。資源のない日本が生きてゆくためには、この技術の開発による外に道はないと言われています。このために、これからの技術者は、これまでの技術者以上に専門の技術は勿論のこと、専門外の分野についても広い視野を養い、また積極・協調・独創(創意工夫)の精神が要求されます。このような社会の期待にこたえる技術者としての「基礎学力・知識の修得」と「各人の能力を開発・啓発する」ための五年間でありませぬ。

### 生活態度

諸君の中には、本日から家庭を遠く離れて寄宿舎で高専生活をスタートする学友が六十数名いますが、これら寮生諸君もまた家庭か

ら通学する諸君も、一年・二年・三年と着実に、講義・実験・実習を一步一步習得すると共に、本校特色の一つである図書館を利用して課外の勉強にも励み、また全員が積極的に体育系の各クラブや文化系の各クラブに入部して身の鍛錬に努め、寮生は寮生活を通して社会生活の基本を身につけ、そして一生の友となる沢山の素晴らしい先輩・同僚・後輩を得るよう、まず「高専生としての毎日の生活リズム」、「毎週の生活リズム」をつくることを心掛けて下さい。

五年間の一貫教育はその利点の反面、大学受験などの刺激がないために、ややもすると安易な生活へ走りがちでありますから、その判断を誤らないだけの勇気と理性が必要であります。

最後に、諸君は筑後・玉名地域では国立の最高学府の学生であります。高専はスクールでなく、「カレッジ」ですから諸君は本日から「学生」と呼ばれます。生徒ではありません。諸君の一挙一動は地域の方々の注目の的でありませぬ。高専の学生としての「誇り」と「自覚」をもち、これまでの中学生生活と一線を画して、新しい高専生活を中心掛け、新しい友を求め、入学の時の燃える初心を忘れず、五年先に揃って卒業の日を迎えることを祈念して、式辞といたします。

昭和六十年四月八日

有明工業高等専門学校長

吉村虎蔵

# 第十八回卒業式告辞

本日ここに、後援会長・寮生保護者会長・同窓会長をはじめ来賓各位、御父兄の皆様、教職員一同並に在校生代表多数参列のもと、本校第十八回卒業証書授与式を挙行し、新しく技術の世界に羽ばたく卒業生一三六名を、産業界・官界及び技科大など五つの大学に送り出すことが出来ますことは、本校の最も慶びとするところであります。卒業生諸君おめでとう。御父兄の皆様にも心からお慶びを申し上げます。次第であります。

## 一の五年間

諸君が在学したこの五年間は、本校が教育及び施設設備の両面で、創設時について格段にその整備充実の機に恵まれた期間であると考へます。すなわち第二体育館・共同教育研究施設・修己館などの新営をはじめ、在来校舎・体育施設・学寮などの教育環境の改善、各種の新鋭機器の導入、選択制度・推薦入学制度の導入、歴代校長の訓えをもとにした本校の教育方針、倍明寮訓の制定、創立二十周年記念事業などを数えることができます。これらの学校の整備充実にも増して、この五年間の諸君の実践的技術者としての心身両面の逞しい成長振りに、天草青年の家での新

## 技術の創造・人の心

九月の講話の中で、日経企業ランキング一位の「京セラ」の技術開発のこと、バルブのトップメーカーである宮崎県の地元の一企業の技術開発について、さらに新講話の中では、生物工学、新素材、電子情報関係の素晴らしい数々の技術開発の例を、また従来型産業の中のメカトロニクス化・省力化について話をしましたが、これらは諸君の記憶に新しいことと思ひます。先端技術の企業では一年遅れると永久に追いつけないといわれまじし、従来型産業でも現状に安住していると直ちに斜陽化するといわれています。

## 誇りと自信

五十九年夏の、大学設置審議会高専分科会の中間報告書の中に、これまでの高専卒業生十二万人の平均的評価として、高専卒は大学卒に近い高い評価を得、かつ専門的知識や技術に優れ、職場適応にも富むという点で高い評価をうけていると記されています。

## 年間行事計画

4・8	始業式	12・1	寮生駅伝大会 (ラグビー・大分)
9	入学式・入寮式	5	冬季球技大会
10	新入生校内オリエンテーション	19	後期中間試験
15	新入生オリエンテーション (英彦山)	25	冬季休業
15	17	2	19
20	開校記念日・遠足	23	入学試験
5	12	3	3
15	18	4	4
23	15	5	10
6	11	10	24
11	15	24	卒業式

昭和六十年三月二十三日  
有明工業高等専門学校長  
吉村虎蔵

15 寮生漫歩  
7・16 父兄懇談会  
19 九州地区高専体育大会 (大分・有明・熊本電波)  
22 夏季休業  
下旬 九州地区高専英語弁論大会 (鹿児島)  
8・中旬 四高専吹奏楽部合同演奏会 (北九州)  
19 全国高専体育大会 (茨城)  
9・2 授業開始  
20 体育記録会  
10・7 前期末試験  
16 後期授業開始  
31 文化講演会  
11・2 高専祭  
16 寮祭  
21 九州地区高専大会 (ラグビー・大分)

# 退官教授のことば

## 定年を迎えて

木村剛三

生来、万事に中途半端な私は物事に徹底して取り組むと云うことが出来なかつた。開戦前、米国の高圧的な威嚇に腹を立てながらも大学を卒業、海軍士官になり大村の航空廠に配属になったとき、寝食を忘れて仕事に没頭と云う所までは行かなかつた。戦後、公立学校に勤めるようになり、一転して日教組の旗の下、デモ行進を繰り返えし支部長の要職(?)にまでなったが、そして組合の必要性は頭では肯定しながら、自分としてはなるべく組合の仕事は御免蒙りたいと云う気持ちであつた。しかし一番いけないのは、教師にならなから教師に徹し切れなかつたことである。本来、エンジニアになることが子供の頃の夢であつた。私は、かなりの間の夢を捨て切れなかつた。また、昔の制度では学校さえ出れば教師になれたのである。従つて自分の学生時代の記憶を頼りに試行錯誤の繰り返しと云う自信のなきも理由の一つであつた。しかし、幸に良き先輩、同僚に恵まれ、経験を重ねるにつれて教師生活も少しは板について来たが、一方ではマンネリ化のきざしも見えてきたと思う。その様な時期に高専への話が持ち上つた

## 有明高専を去るに当つて

下村 龍太郎

昭和40年に有明高専に赴任して来ましたが、以来20年が夢のように過ぎ去つたという感じがする。その頃開校三年目で校舎は一部しかできておらず、雨が降れば校庭はぬかるみと化し、また実験設備も不十分な状態でしたが、教官も学生もバイオニアの精神に燃えて頑張つたものでした。その後設備も整いつつ卒業生が巣立って、社会的な評価も確立して来ましたが、これからの10年後20年後の有明高専の姿を想像してみると期待が胸がふくらみます。学生諸君は前校長藤先生のお言葉「萩陵玉之郷」を胸に刻み、

## 十年間の思い出

武下 定四郎

三十年間の企業生活において修得した電力関係の技術経験を少しでも学生の技術教育に生かすことが出来ればとの願望をもつて、五十年四月から本校電気工学科に勤務させていただきましたが、それから早くも十年の歳月が過ぎ今年定年退職致しました。

## 勝田正男

創立以来昭和五十四年の眼底出血入院以外は、本年三月末日の停年迄、諸先生や学生諸君と共に二十三年間を無事勤務出来たこと、誠に有難く感謝します。

# 新任教官のことば

## 機械工学科教授

庵原久夫



昭和二十六年に、大学卒業後、直ちに福岡市と本社工場がある昭和鉄工(株)に入社し、以来三十四年間、ボイラ、空調機器等の設計開発に従事して参りましたが、このたび、縁ありまして、本年四月より本校に勤務させて頂くことになりました。今後、公私共に、生まれ変わった積りで初心にかえり、新任教官として頑張りたいと思ひます。皆様の御指導をお願いいたします。

機械工学科教授  
倉橋 完充

長い会社勤めを経て今度機械科に参りました。この間多くの方々から教えられ、又失敗も数多く重ねてきました。この反省にたち、今度就職につくに当り、私の課題を次の三つに絞りました。一、右脳でわかり易く考える。二、余裕を持つて物事を見る。三、笑つて(次ページへ)



(前ページより)

全力疾走する。以上難題ですが諸先生の御援助を得て何としても達成したく考えてます。学生諸君と一緒に考え、一緒に走ろう！

機械工学科助手

南 明 宏

熊本からこの地にシフトしまして一カ月が経ち、環境の急変に戸惑いながらも、ようやく落ち着きを取り戻してきた今日この頃です。「桃李言わざれども下おのずから蹊を成す」を基本精神にして、学



生と諸先生方とを結ぶより円滑な、かつお互いの機微が解せるようなパイプ役を演じたいと思います。全く白紙の状態でもできませんが、若さと秘めたる闘志で頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

昭和60年度新入生オリエンテーション

実施要領

- 目的 (1)研修を通じて心身を鍛えると共に、基本的な生活態度を学ぶ。 (2)高専生活への理解を深め、高専生としての自覚を高める。 (3)共同生活の中で相互の友情を深め、連帯意識を高める。

○日時 昭和60年4月15日(月)～17日(水)

○場所 福岡県立英彦山青年の家

福岡県田川郡添田町

大字英彦山32の18

- 参加者 一年生四名(除病欠2名) 吉村校長以下教職員15名

○同時研修者 北九州市美萩野女子高校四名

例年熊本県立青年の家において実施してきた新入生オリエンテーションは、今年同所の利用希望学校、団体が多く、本校の教育的日程の範囲での利用が困難となり、校内においての協議の上、福岡県立英彦山青年の家の利用を申し入れた。幸にも、本校にとりオリエンテーションとして最適な時期に利用を認められ、御配慮に感謝し

ている。昨年までの海に近い青年の家に對し、同所は海拔80米、正に歴史ある霊山の青年の家であり、学生諸君は自然を十分に満喫できたものと思われる。幸にも好天に恵まれオリエンテーションを始めとする諸行事を滞りなく終えることができた。企画、準備、実施にあたり、御協力賜った校内外の方々に深く謝意を表します。

教務主任

オリエンテーションを終えて

IM 柴 田 健 一

僕は、この研修を通じて、多くを反省し、多くのことを得た。まず、団体生活の厳しさがわかった。「自分一人ぐらい……」という気持ちを一人でも持っていて

れば、その団体全体のまとまりがなくなる。次に、友達が多かった。その友達には、これから始まる五年間の高専生活の不安を、一気にのりのぞいてくれた。しかし、その反面、慣れてくると、けじめがなくなるといふ悪い面が見えてきた。就寝時刻の遅れがそれだ。しかし、反省すべき点が見えたということも、自分にとってプラスになるだろう。きつかったオリエンテーション、楽しかった友達との会話、いずれも僕にとって良き思い出になるだろう。

この良き思い出を土台に、これからの、高専生活を自分なりに一杯、築きあげていきたいと思う。

日 程 表

Table with columns for dates (4月15日, 4月16日, 4月17日) and times, listing activities like meals, lectures, and free time.



有明高専 図書館だより 48

図書館利用のあり方をめぐって

図書館長 丹後杏一

早いもので私が図書館の運営に携わるようになってからもう丸三年になる。館長になって早々のころは、あれもしたい、これもやらねばとそれなりに抱負をいだいたのであるが、ふり返ってみてその中で具体化したことといえば、何とか軌道に乗ってきた読書感想文コンクール位で、その他の面では果して学生の利用促進のために何がなされ、どれ位の成果があがったといえるのか、些か忸怩たる思いに駆られる。勿論、私も、図書館内の設備・環境作りや資料収集などで可能な限りの努力はしてきたつもりである。たとえば、次のようなところのみならずその一例といえよう。

- 参考図書コーナーの設置——カウンター寄りの書架に辞書・事典類などの参考図書を集配し、調査研究の便をはかった。 ●特設別置書架の設置——閲覧室中央に特設書架を設け、学生希望図書を別置するとともに、臨機にテーマ別の図書を展示するコーナーを設定した。 ●図書館入口の通路や閲覧室内壁面を利用して臨機に特定テーマ

による展示を行なってきたこと。以上はもとよりここでとりたててのべる程の大ききなところではないが、それでも学生に対する啓発活動としてある程度は利用の促進に寄与したのではないかと自負している。これからも、利用し易い役に立つ図書館たらしめることをめざしてやれることほどもし、実行していきたいと考えているので、学生諸兄も直接あるいは図書委員を通じて意見やアイデアを提供して欲しい。 ところで、私達がカウンターから学生諸氏の利用の仕方や態度を見ていると何かと気になることもあるので、それを二点ほどあげ、あわせて私達の要望などものをべてみたい。

- まず第一に最近とくに目立つ傾向は、書架から本を取り出して利用した後、元の場所に戻すという基本的な図書館ルールを守らぬ人が多いということである。図書はきちんと分類順に配架されているので、滅茶苦茶に並べられると後でさがすが大いに迷惑する。この借りた本を元の場所に戻すというのは図書館利用のABCであり、

常識である。面倒がらずに是非きちんと守ってもらいたい。 つぎに、学校の恥になるようであまり書きたくないのだが、図書館の中で飲食し、その食べガラや空きビンなどを室内に散らかすという動物的な行為は絶対に止めて欲しい。諸君の中には日常生活の中でまもるべき基本的常識を心得ない人があまりにも多すぎる。飲食すべき時間と場所をよくわきまえて行動するよう、文化の殿堂を汚すような非文化的な行為は是非つしんでもらいたい。

昭和59年度学科別貸出図書冊数調 (延入館者数 28,314人) (開館日数 296日)

Table showing book lending statistics by department and year, including categories like Mechanical Engineering, Electrical Engineering, Industrial Chemistry, and Architecture.

視聴覚室より 本校図書館の視聴覚室も開館(昭和四十七年)以来十三年が経過しカーペット敷の快適な教育環境として、正課の音楽授業、英会話、課外における特別講演、映画観賞など幅広く利用されてきましたが、長期に亘る利用で床面の摩耗がひどいためこのたび会計課にカーベ

○昭和59年度に総合実習で行なわれた主なる事について説明する。

(1) 環境風洞及び周辺部の設計製作関係

風洞関係の主なるものは、風洞本体関係、センサー移動装置関係、吸込みチャンパー関係、吹出しチャンパー関係等である。

風洞本体関係では、吸込口の整流格子及びフィルターを完成し、縮流部の下部に脚をつけた。また実験模型を出し入れするためターンテーブル用の穴を風洞本体下面に明けた。

努力した結果、風洞内の気流の乱れは少くなり、実験出来るようになった。センサー移動装置関係では、測定部の枠の作りなおしを行った。吸込みチャンパー関係では南北両面にフィルターを取りつけた。吹出しチャンパー関係では屋根部分の設計を行い、鉄骨にて製作中である。

総合実習レポート (22)



写真1 特別講義 熊本大学教授 本里義明先生

域の環境保全並びに災害防止のための基礎研究」として文部省において特定研究の認可をうけたものである。海水中の微量元素分析調査は、当該地区で採取した海水中の有害成分を分析するものである。有明海の沖積層に関する堆積学的研究では大牟田平野のボーリングコアの粒度分析を行っている。土の粉体部分は光透過法により、粗粒部分はふるいをを用いて分析し

風洞を使って、実験解析が行なわれている。

(5) 工学的基礎問題  
Py-GL-MSによる高分子化合物の分析、ウリカーゼによる尿酸の分解反応等よりなる。前者はポリウレタンのガスクロの分離条件を求め、温度による分解の仕方の変化を追跡した。またガスクロ分離の最適条件の所でスペクトルを測定し、分解生成物の同定の判断資料とした。後者は分光光度計を使って、ウリカーゼによる尿酸の分解反応を実験解析したものである。

(6) 昭和59年度特別講義  
昭和60年1月17日、熊本大学工学部合成化学科・本里義明教授により、

日本の工業の現状と将来

1、日本の工業の現状と将来。  
2、発明と特許。

た。目的としては沖積層の堆積環境を知ることにある。

(4) 自然災害問題関係  
九州中部地域の建築物震害防止と一方向型吊屋根のフラッタのこつりなる。前者は特定研究の一環として、実験解析が行なわれているもので、建物が地震を受けたとき、どのような破壊をするか、そのメカニズムを追求したものである。後者は、新しく出来た、環境

有明海東北部海水の微量元素分析調査と有明海沿岸の沖積層に関する堆積学的研究とよりなっている。これらの研究は、「有明海地

昭和59年度 後期 総合実習経過表

実習項目	実習経過 (日)									実習者数×時間(人時)																
	10			11			12			1			2			3			M	E	C	A	小計			
吸込みチャンパー金網取付	■			■	■	■																54	16		70	
風洞縮流部の塗装				■	■	■																65	8		73	
吹出しチャンパー屋根の製作							■	■	■	■	■	■	■	■	■							68	23		91	
ターンテーブル製作	■	■	■																			208	44		252	
熱伝導率の測定																						18	12		30	
計測室拡張工事																						84	15		99	
大牟田市周辺環境調査																									338	338
アンケート調査																									288	288
吹出しチャンパー屋根設計																									164	164
実習センター内の整理及び清掃																									56	56
																						14	12		28	
通算累計										511	130	874	1,515													
年間累計										1,240.5	175	1,711	3,126.5													

原子と原子が結びつき分子になるとき、原子のどの原子が結びつくかを発見されたのである。結びつくのは一番外側の電子であり、これをフロンテア電子と名付けられた。

また特許の出願の仕方と困難性等について、分かりやすく講義された。

(7) 一日入学  
昭和59年10月27日、中学生を対象に、本校のPRをねらって「一日入学」の行事が行なわれた。総合実習においても参加者を対象に風洞内において風を受ける円柱のフラッタの実験を行い見学者に設備の充実さを認識してもらった。

十米をヨーロッパ諸国が走っている。日本はいまにもアメリカを追い越そうとしている。

現在においては、エネルギーや化学製品等の原料は主に石油に依存している。石油は中東戦争等によって値上げされている。各国共戦争によって輸入出来なくなる場合に備えて、石油を備蓄している。この備蓄量の一番多い国はスイスである。

石油からは、ガス、ガソリン、ナフサ、ジェット用燃料、灯油、軽油、重油、潤滑油、アスファルト等、いろいろなものを取り出される。わが国では、これらのナフサを主原料として、あらゆる製品が生産されている。原料から製品

百人、もう一つは七百人の工場を作った。そして合成繊維の生産を開始した。

日本は三百二十万人で蚕糸を作っていたわけだが、アメリカではわずか一千五百人で、それ以上のものが生産されたことになる。この三百二十万対一千五百という数字が、工業がいかに農業よりも強力かということのあらわれである。先頭集団持久走という言葉がある、これに日本の工業をあてはめてみると、今から十、十五年前は日本のはるか前方をトップのアメリカが独走、十、二十米前方を、西独、仏などが走っていた。ところが現在、アメリカと日本は肩を並べるに至った。この後方十、二

工業が発達して、国が豊かであるためである。

日本ではナイロンが発明される以前、三百二十万人の人々が農家の副業として蚕を養っていて、蚕より絹糸がとり出され、アメリカに輸出されていた。そのころアメリカの化学工場であるデュポン社にカローザスという人が入社した。彼は二、三年で合成ゴムを発明し、十年でナイロン繊維を発明したほどの天才である。

ナイロンは、水と空気と石炭から出来、蜘蛛の糸よりも細く、鋼鉄よりも強く、絹よりも弾性に富む繊維として売り出された。そしてデュポン社は輸入する蚕糸の一年間分の代金をためて、一つは八

工業が発達して、国が豊かであるためである。



写真2 潜熱蓄熱実験装置



写真3 熱伝導率測定実験



写真4 計測室拡張工事用コンクリートの練り混ぜ

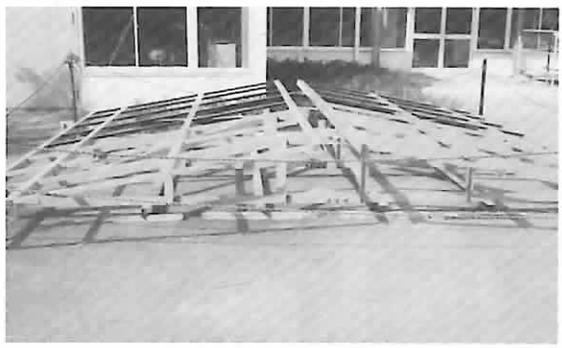


写真5 吹出しチャンパー屋根鉄骨

# やまもも 祈りの楊梅、除幕式 交通事故絶滅の悲願をこめて



先号(57号)に吉村校長が書かれたとおり、昭和五十五年十二月二十四日に交通事故で亡くなられた山口・吉村・矢田三君の御遺族から頂戴した御芳志によって、バイク駐車場入口に二本一休の楊梅(やまもも)が植えられ、校長はこれに「祈りの楊梅」と命名し、これを刻んだ石碑を建立した。

四月八日、昭和六十年度の始業式の日、式後、全学生を校門付近に整列させ、その石碑の除幕式が挙行された。

実は前記三君のあと、昨年の十月二十九日に北原君(当時4M)のバイク死亡事故あり、この除幕式に際し「交通事故絶滅の誓い」をこめて黙祷を捧げた。

そのあとで、学生会長野田智洋君が、この楊梅・石碑・除幕式の意義について全学生に説明したがこのとき、彼は、学生のさきほどの黙祷の態度に不満を表明した。亡くなった先輩らの冥福を祈り先輩の霊を慰めることができるのは、君達一人一人が決して交通違反をしない、事故を起こさないといふ心から誓うことではないのか、いまの諸君の黙祷はいい加減だ——と熱を込めて語り、黙祷をもう一度やり直させた。

勇将のもとに弱卒なしという。この決意新たな学生会長の心を体し、学生会・全学生は心から誓ってくれたことと期待してやまぬ。

学生主事・樋口

## 春休み中の合宿

成績判定会議や卒業式など、あわただしい三月も過ぎ去ろうとする、休暇中の29日、早くも各体育クラブは昭和60年度の高専大会に向け猛練習の火ぶたを切った。

岱明寮を宿舎とし、春季合宿の合同練習に打ち込んだのは、硬式野球部、軟式庭球部、卓球部、サッカー部、バスケットボール部、剣道部の六クラブ、総勢10人の部員達であった。

早春の陽光に照らされたグラウンドの四方から、第一、第二体育館の内部から、元気な掛け声が飛び交い、ほとぼるる体軀の疾走が見受けられた。

合宿は何ら事故なく終了し、食事等も修己館にて礼儀正しく行なわれた。この間チームワークの育成のみならず精神面での修養も培われたこと、各部の主将ならびに顧問の先生方に厚く謝意を表したい。

## 今年が高専祭の年だ

学生会 長 野田 智洋  
高専祭実行委員長 井手 一雅

## 三池山遠足

去る4月20日、開校記念日において、新入生を歓迎して、三池山頂を目標に、各科団長を先頭に、午前9時に出発した。

前日の晩、雨に見舞われ、天気心配されたが、当日は、晴天に恵まれ、しかも4年ぶりの遠足とあって、新入生をはじめ全学生に、終日美しい汗と笑顔が見られた。

三年生以上の人なら、高専祭というものが何であるかは理解してもらえらると思えますが、簡単に説明しますと、普通高校や大学で言う「文化祭」「学園祭」です。

我が高専祭のもつ意義を言わせてもらいますと、「学生の創造・主張の場」として、学生が意欲的に活動することだと思えます。その一つとして文化クラブ・学科ごとにおける日常の活動から得た成果の発表があるわけです。

高専祭というものは、先に述べたように、文化クラブの発表の場でもあり、各々の文化クラブが、高専祭に向けて、全力投球しているのです。

そこで、各、文化クラブの高専祭における目標を紹介します。

まず、高周波研究部では、公開QSOをはじめ、ミニFM局などの企画を考えています。

コンピュータ研究会では、一般の人にもわかりやすく面白い、ソフト関係の、発表、展示。

自動車工学部では、自作の自動車を発表。

フォークソング同好会では、ミニコンサート。

漫画研究部では、自作の漫画の一般公開。

写真部では、芸術的、すばらしい写真の展示会、発表会。

天文部では、天文に関するセツトを用いた説明会、展示会。

DIY愛好会では、ホバークラフトの製作。

その他、吹奏楽部、英語研究部美術部、将棋愛好会、書道部、アイデア研究部、自転車愛好会、映画研究部、低周波、生物部において、それぞれのクラブの魅力を最大限に発揮できるように、がんばっています。

高専祭実行委員会及び学生会では、「志気」をテーマとして、全てにおいて意欲的にやろうと考えています。何かをやり遂げる満足感を得ようという事です。

実行委員会では、色々なパザール・模擬店・学科の展示や実演・ライブハウス・中夜祭など楽しめる企画を立てています。

二年に一度の高専祭を悔いの残らぬように、全学生によって、すばらしいものにしてあげたい。

# 銀杏棟 学寮だより 青葉棟 紅葉棟

## 昭和60年度を迎えて 育てよう 素直な心 豊かな心

年齢歳花相似 歳歳年年人不同 劉廷芝「代悲白頭翁」

五年間共に学んだ13名の先輩が元気に巣立ち、入れ代って63名の新人寮生を迎えることになった。

四月になれば桜が咲き、やがて若葉・青葉の萌える季節となるが、一昨年、昨年と何も変らない。しかし、人は同じとは限らない。歳月と共に友も変わり、また人の心も周りの影響を受けて変化する。

新年度を迎え、寮生会役員、寮務関係職員共に新陣容となり、先達つては九重で楽しい研修を行った(写真上)。寮生諸君、素直な心をもって師と語り、友と論じ合い、豊かな心を育て、いこう。

**昭和60年度寮関係スタッフ**

(寮務主事室関係)

寮務主事(建築) 玉野 実  
寮務主事補(機械) 川崎 義則  
寮務主事補(一般) 徳田 仁  
寮務主事補(工化) 水室 昭三  
(寮務関係委員)

学生主事(一般) 樋口 大成

学生 課長 井手 利彦  
寮務係長 徳永 信二  
寮務係(寮母) 富崎 クニ  
寮務係(栄養士) 島本 久子  
寮務係 西原 孝一

新任者のことば  
寮務主事補 川崎 義則

4月から寮の仕事を担当することになり、つぎのことを寮生と共に一つでも実行できればと考えます。①良いことは習慣化しよう。「しなければならぬが」と頭で考えるうちはだめである。沈黙帯などがこれに入る。②寮行事には前年度のものに必ずプラスアルファのオリジナリティを。昨年同様では伝承・伝統にはならない。③学寮評価のポイントは、上級生が名実共に育っているかどうかである。後姿で導こうの率先垂範を心掛けてもらいたい。下級生はついてくるものである。

## ちよっぴり淋しい 寮生追出しコンパ

2月16日、前日の雨で相撲大会の開催が危ぶまれたが、好天と役員の見事な予定通り実施となった。

優勝はけっかす部屋(写真中)。次は餅つき。杵は寮母さんに貰った椿製、慣れないのでぶっつけるやら、落すやら(砂入り餅...)。

18時、愈々コンパの開宴。校長挨拶のあと、先輩13名の別れの言葉。



約10年前寮務委員をして強烈な思い出もいくつもある。しかし昔は良かったなどとは言いたくない。言ったら後退だ。とはいえ、現在の寮を自分の目でじっくりみてみたい。

寮務主事補 徳田 仁

私は学生時代に数年間学生寮に生活し、学んだ。楽しいことも、辛いこともあったし、不自由な思い出も。食事のこと、プライベート

葉、そして余興へと続く。賑やいでいるようだが、何となく淋しい。でも、あつという間に時間は過ぎ、次は寮生会及び寮生保護者会より記念品を贈呈。そして、高木寮長より、「寮生活で得た集団生活の大切さを守って、より成長され、ご活躍されると信じます。時には昔を振り返り、勉強のことやクラブで流した青春の汗を思い出され、この寮にも元氣な笑顔を見せて下さい。……」との言葉を贈る。

つ解決するように微力を尽したい。最後に、吉田和弘前局長より、つまらない寮生活だったと言う者もいる/楽しかったと言う者もいる/みんな思いついて外から見ようとしている/団体生活がいかにもむづかしく、楽しいものか我々寮生が一番よく知っている/何も言い残すまい/笑って出ていこう/みんなありがとう

との答辞があつて、寮生追出しコンパも閉幕となった。(写真下)



シイのこと、掃除のこと、勉強のことなど、現在の岱明寮の悩みと共通する問題もたくさんあった。問題が起ると、室員同志で、あるいは寮全体で相談して解決した。協調の精神が寮生活の潤滑油であった。私の学寮生活の思い出は、総じて、心楽しいものである。

青春期の多感な一時期を過ごす寮生活が、学生諸君にとって楽しいものであるように祈る。そのために、眼前の小さな問題を一つ一つ

寮務係 西原 孝一

本年四月一日付で任官し、寮務事務を担当することになりました。私は「開魂」の言葉をモットーに、何事にも挑戦し乗り越えていこうと思っている純情青年です。



# 同窓会だより

## 「卒業式に思う」

同窓会長 塚本 敏樹(43C)

時が経つのは早いもので、学舎を後にしてそろそろ20年の歳月が流れ去ろうとしています。今年の3月も、4名の先生方が、めでたく定年を迎えられ退官されましたが、創立以来我々を御指導下さいました先生方が去って行かれる事は誠に淋しい限りです。

長年に亘る御指導に対しまして深く感謝申し上げますと共に、今後の益々の御発展と御健勝をお祈り致します。

ところで、反省なき処に発展はないと良く言われますが、つつい日常雑事にまかされて惰性に流されるのが常であり、私もその例外ではありませんが、幸い同窓会のお手伝いをさせて頂く様になってから、毎年卒業式に招いて頂いております。この時が私にとりまして自己反省の絶好の機会であります。卒業していく後輩達に何か参考になる話を考える事が自分自身の反省にもつながり、時には自分自身の課題そのものである時もあります。

今年も何を話そうかと考えているうち、高専に留学している外国人学生の話をしました。

昨年、八代高専から現在受け入れている外国人留学生に工場見学をさせたいという事で私が勤務している工場を是非お願いしたいという申入れがあり、私が案内しました。中国とマレーシアから各々2名ずつでしたが、見学にあたって引率の先生から説明は日本語で結構ですということでした。しかし来日まもない事でもあるし、途中で不安になり、私の日本語分りますかと尋ねたところ大丈夫ですという力強い返事を受け非常に感心した次第です。

特に中国からの留学生は服装、そして態度といったものがきちんとしている特に好感がもてました。御承知の様に、現在中国は4つの現代化を推進中であり、日本でいえば丁度30年代後半の高度成長の幕明けの時期に似ているのではないかと思います。従って中国政府は日本の高専制度に注目し、その実情を研究する事も目的の一つとして留学生を送り込んでいると聞きました。

遠く故郷を離れ異国の地で勉学に励む原動力は、一日も早く先進国に追いつくのだという意気込みと使命感ではないかと思います。日本の高専生にとってもそういうものがあるに越した事はありませんが、昨今の技術の進歩はとどまるところを知らないといった状況で、今後益々加速する一方であり、また発

展途上国の追上げも厳しいものがあります。どうか彼らに負けない様、頑張ってください。20年前と現在とでは状況は様変わりしてしまっているとは言え、彼らを見て、私自身、当時を振り返ってみるといかにのんびりとしていたか痛切に感じるのを否定できませんでした。そして冒頭にも述べました様にすでに20年が過ぎようとしています。さあ私も又、頑張らねばと心に誓った次第ですが原稿を書きながらも、先程のビールが効いてきたのか眠くなってきました。もう、反省の時期が来たようです。

## 60年度 同窓会理事会

- 1、日 時 昭和60年5月18日
- 2、場 所 有明高専大会議室
- 3、議 事 議長 塚本会長
  - (1) 前回議事録確認
  - (2) 名簿発行についての報告
  - (3) 59年度決算報告
  - (4) 全上監査報告
  - (5) 60年度事業計画、予算案
  - (6) その他
- 4、閉会挨拶

60年度の同窓会理事会は上記の次第で開催され、無事終了した。詳細については次号で紹介する。仕事の都合と思われるが、正会員の理事の出席が少なく、寂しく感ぜられた。

## 教室通信

### 機械工学科

この春、退官された木村剛三・下村龍太郎両教授の後任として庵原久夫教授(昭和鉄工KKより、設計製図、熱工学担当)、倉橋完充教授(三菱重工長崎より、設計製図・熱工学担当)が、また新進の教官として南明宏助手(熊大、生産機械・修士、塑性加工・材料担当)が着任されました。実習工場では、内野豊作・中村平岡教官が退官され、代って木下正作技官(機械工場)・河村英司技官(溶接工場)が任用になりました。

機械工学科は5人の新人を迎えて精気にみちた昭和60年度をスタートしました。卒業生の皆さん、帰郷の折には是非教室をお訪ねください。

◎教室事務員、岡村雪枝さん ○3月30日御

結婚(新郎本校事務官中川日出光氏)◎〒864 荒尾市下井手768 高専宿舍 Ⅱ09686 -6-1752

◎吉田正道先生 ○3月30日長男誕生 慎太郎君

◎大賀康広君(56) ○59年11月24日結婚、新婦幸子さん(旧姓古川) ◎〒882 宮崎県延岡市桜園町53番地 東旭アパート1032号

## 電気工学科

武下定四郎教授定年退官 昭和60年3月31日 ◎住所〒815 福岡市南区三宅3丁目5番26-606号 Ⅱ092-553-1773

尚今後は非常勤講師としてお見えになります。先生の御健康と御多幸をお祈りいたします。

◎矢ヶ部喜俊君(54) 昭和60年3月16日結婚 新婦 由紀子さん ◎新居〒045 神奈川県横浜市緑区しらとり台62番地21 Ⅱ045-983-3485

◎久保田桂二君(56) 昭和60年3月22日結婚 新婦 美紀子さん ◎新居〒277 千葉県柏市千代田2-12-16 Ⅱ 0471-63-2721

◎学校来訪者 間々田直行君(56) 樺島保博君(47)

久保田桂二君(56) 嶋田三千夫君(58)

高岡浩一君(58) 木村栄章君(52) 山本勝喜君(53) 阿久根利宗君(59) 興梠秀一君(60) 角哲也君(60) 松尾美治君(60) 吉田幸重君(55) 岩田昭吾君(60) 浦塚 精君(60) 橋本良則君(60) 谷川友久君(58) 北原善一君(60) 境 裕二君(60) 内田浩享君(59) 中村重治君(60)

## 工業化学科

この春、次の方々の人事移動がありました。勝田正男教授(現在非常勤講師)、荒瀬豊技官が定年で御退官されました。荒瀬技官の代わりに高細 探技官が任用になりました。教室事務官の奥苑登志子さんが総務係に、代りに図書係の足達雅代さんが教室事務官に配置換になりました。

◎杉原健一君(47) □転職 (御富士通南九州システムエンジニアリング(〒860 熊本市細工町4丁目30番地の1(扇寿ビル) Ⅱ 096-326-2511) ◎〒860 熊本市蓮台寺町1190番地 Ⅱ096-353-4597

◎拜志 明君(47) □転勤 富士写真フィルム(株)(〒106 東京都港区西麻布2-26-30)

Ⅱ3-406-2864) ◎中村哲治君(47) ◎転居〒670 姫路市元塩町118 白鷺印刷ビル3F Ⅱ0792-82-8830

◎吉永 昭君(48) ◎転居〒591 大阪府堺市新金岡町5丁目3-202 淡路マンション内 Ⅱ0722-53-9987

◎今村健一君(52) ◎転居〒816 大野城市御笠川4-8-6

◎岡田博之君(53) ◎転居〒300-03 茨城県稲敷郡阿見町若栗西方1339-2

◎松永基英君(55) ◎転居〒574 大阪府大東市御供田1丁目19-17 Ⅱ0720-75-3473

◎山下 徹君(55) ◎転居〒815 福岡市南区清水1-8-41~103 Ⅱ092-511-5910

◎荒巻和彦君(56) ◎転居〒815 福岡市南区塩原1-20-3 コーポ江越303号 Ⅱ 092-511-6138

◎月田博文君(60) ◎転居〒839-01 久留米市荒木町荒木1196番地 青雲寮112号

葉町3-5-10 国鉄アパート3-5 Ⅱ096-365-2907

◎杉本清昭君(51) ◎転居 〒866 熊本県八代市松崎230-5 永塘荘2棟1号 Ⅱ0965 -33-9320

◎西原克之君(51) □転勤 〒890 鹿児島市鴨池新町12-13 大和ビル鹿児島内大和商エリス鹿児島支店 ◎〒890 鹿児島市日之出町22-22 コーポさくら102号 Ⅱ0992-56-1538

◎村上剛宏君(51) ◎転居 〒815 福岡市南区塩原3-26-18

◎田中岳司君(52) ◎〒830 久留米市南町19-8の1 Ⅱ0942-21-1985

◎松川典幸君(52) □〒859-06 長崎県西彼杵郡長与町高田郷4001 Ⅱ0958-83-5128

◎〒859-06 長崎県西彼杵郡長与町郷里郷1139 今里ハイイツ102号 Ⅱ0958-83-7021

◎境淳三君(55) ◎転居 〒864 荒尾市荒尾4186-1 日立造船大谷台社宅4棟302

◎西村博文君(55) ◎転居 〒233 横浜市港南区港南5丁目7番1-210号 ライオンズマンション港南中央第2

◎中野光敏君(55) □転職 三井ホーム(株)川越営業所 ◎〒356 埼玉県上福岡市富士見台13の26 第3ロイヤルマンション207号 Ⅱ0492-66-2718

◎浜村(田中)節子君(55) ◎転居 〒662 兵庫県西宮市上ヶ原五番町1-63 Ⅱ0798-54-1595

◎小川伸司君(56) □転勤 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部建築学科内田、坂本研究室 Ⅱ03-812-2111 内線6154(受託研究員) ◎〒185 東京都南分寺市泉町2-7-8 富士見寮3-302 Ⅱ0425-72-2151

◎内藤浩敏君(56) □〒890 鹿児島市下荒田4丁目21-19 明治生命下荒田家族寮新築工事事務所 ◎〒892 鹿児島市西千石町14-9 吉井ビル403号

◎小形伸治君(57) □転勤 〒064 札幌市中央区南2条東1丁目1-14 住友中央生命ビル内佐藤工業(株) Ⅱ011-222-8231 ◎〒064 札幌市中央区南2条西11丁目ニュースカイマンション203号 Ⅱ011-642-0151

◎古賀禎樹君(57) ◎転居 〒849-01 佐賀県三養基郡中原町大字原古賀4518

◎日吉良昭君(57) □転勤 〒760 高松市寿町2丁目4番5号 清水建設(株)四国支店 Ⅱ0878-39-4430 ◎〒761-01 高松市高松町217番地 清水建設屋島寮 Ⅱ0878-41-3636

◎坂本顕彦君(58) □転勤 〒156 東京都世田谷区松原2-3915 飛鳥建設明大前ハイッ作

◎坂本俊久君(58) ◎転居 〒814 福岡市城

南区長尾5丁目17-13

◎柴田国広君(58) □転勤 〒576 大阪府交野市私部1丁目25番5号 重要文化財北田家住宅設計監理事務所 ◎〒576 大阪府私部2丁目22-13-23 末広荘

◎岡藤貴子君(59) □転勤〒244 横浜市戸塚区品濃町549-6 Ⅱ045-824-2111

◎金崎忠助君(59) ◎転居 〒731-01 広島市佐南区安古市町大字上安462-2 高井アパート202号 Ⅱ082-872-6450

◎小井手美和君(59) □転勤 〒270-02 千葉県野田市中里3000 Ⅱ0471-29-1001

◎洞田貫淳二君(59) ◎転居〒222 横浜市港北区樽町2-1-25第一建築網島作業所 Ⅱ045-545-0683

◎長尾祐司君(59) ◎転居 〒815 福岡市城南区長尾一丁目13の32

◎二宮千秋君(59) ◎転居 〒862 熊本市国府4丁目6-5

◎原淳子君(59) ◎転居 〒224 横浜市戸塚区戸塚町29-79 日立わかば寮 Ⅱ045-881-0604

◎奥和範君(60) □就職 竹中工務店 ◎〒658 神戸市東灘区深江北町2丁目10番12号竹中工務店深江竹友寮 Ⅱ078-431-0537

◎笠原信悟君(60) □就職 新日本土木 ◎〒810 福岡市中央区平尾5-3-46 新日本土木社員寮 Ⅱ092-531-3231

◎鹿子木達也君(60) □就職 菱和調温工業 ◎〒364 大阪府摂津市香露園29-27 菱和調温工業(株)千里丘寮

◎重富明子君(60) □就職、巧匠設計一級建築士事務所 ◎〒836 大牟田市龍湖郡町33-1-2-55 Ⅱ0944-52-0284

◎中村勤君(60) □就職 〒411 静岡県駿東郡長泉町中土狩1111東レ建設(株)三島出張所 Ⅱ06-448-5155 ◎ (勤務地と同じ) 東レ秀峰寮 Ⅱ0559-87-9078

◎平田桂子君(60) □就職 大洋ホーム(株) ◎〒530 大阪市北区天神橋3丁目4-23 大倉グループ白ゆり寮 Ⅱ06-353-04 25

◎本園祐二君(60) □就職 〒556 大阪市浪速区灘波中2丁目5番41号日本たばこ産業(株) Ⅱ06-632-1001

◎〒546 大阪市東住吉区南田辺5丁目30番3号日本たばこ独身寮203号寮

◎森山恵香君(60) □編入学 熊本大学 ◎〒860 熊本市黒髪5丁目10の29香風荘1の1 Ⅱ096-344-0762

◎山下正(60) □就職 〒810 福岡市中央区警固3丁目1-7 大蔵ビル内(株)大蔵住宅 Ⅱ092-731-4171 ◎〒815 福岡市城南区穂井川2丁目1-46 大蔵住宅城南寮 Ⅱ092-861-3928

◎吉松良知君(60) □就職 〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号北阪急ビル内高砂熱学工業(株)大阪支店 Ⅱ06-372-2411 ◎〒565 大阪府吹田市桃山台2-3-D 8-101 高砂熱学工業(株)千里桃山寮 Ⅱ06-834-7149

◎渡邊晴美君(60) □就職 〒869-01 熊本県玉名郡長洲町大字有明1番地ニチゾウ広島設計(株) Ⅱ09687-8-0698 ◎869-01 玉名郡長洲町大字清源寺1735日立造船清源寮 Ⅱ09687-8-1221

◎学校来訪者(敬称略)松川典幸(52) 小川伸司(56) 上妻修・坂本顕彦・原淳二(以上58) 小井手美和・南島洋・平山達也・村嶋敏憲(以上59) 山本・重富明子・森山恵香・山下正・吉松良知・渡邊晴美(以上60)

# 高専体育大会日程

## 第22回九州地区高専体育大会

- 陸上競技 7月20日・21日 大分市宮陸上競技場
- 軟式庭球 7月20・21日 大分県宮原庭球場
- 剣道 7月20日 大分県立総合体育館
- 水泳 7月20日 大洲総合運動公園プール
- 硬式野球 7月20日・21日 ①大牟田市延命球場 ②荒尾市営球場
- バスケットボール 7月20日・21日 大牟田市市民体育館
- 卓球 7月20日・21日 有明高専第2体育館
- サッカー 7月19日・21日 ①熊本大学グラウンド ②鶴屋グラウンド
- 柔道 7月20日・21日 熊本武道館
- パレボール 7月20日・21日 熊本市民体育館
- ラグビー 11月21日・24日 大分市宮原球技場

## 第12回全国高専ハンドボール選手権大会九州地区予選大会

- 当番校 都城高専
- 期日 7月7日
- 会場 都城市体育文化センター
- 参加校 有明・北九州・八代・都城・鹿児島

## 第15回西日本地区高専弓道大会

- 当番校 有明高専
- 期日 7月23日
- 会場 荒尾市営弓道場
- 参加校 鹿児島・都城・八代・有明・久留米・北九州・宇部・新居浜・高知

## 第8回九州地区高専硬式庭球大会

- 前年度まで南・北地区で行なわれていた右大会は、本年度より九州を統一し、次のとおり開催される。
- 当番校 北九州高専
- 期日 7月23日・24日
- 会場 北九州高専庭球コート

# 人事異動

◎昭和60年3月31日付  
▼退職▲  
教授 木村剛三  
実習工場係長 下村龍太郎  
技官 武下定四郎  
宮本美沙子  
内野豊作 教務係(図書係) 足達雅代  
松本 精 学生係(庶務係) 右田末子  
中村 平 用度係(庶務係) 安永振一郎  
吉井修一 総務係(教務係) 奥苑登志子  
荒瀬 豊 出納係(用度係) 中川日出光  
▼転入▲  
教授(工業化学科) 石橋助吉 会計課長 米岡清藏  
助教授(電気工学科) 中村安生 (熊本大学医学部附属病院総務課 課長補佐より) 浦田美津子  
渡辺 徹 庶務係 (九州大学理学部より) 永島 勇  
深野佳和 永守知見 ▼転出▲ 島津喜三子  
水室昭三 水室昭三 出納係 (久留米高専学生係へ)  
▼兼任▲  
教授(工業化学科) 山下 巖  
学生主事補 松野了二 ▼採用▲  
学生主事補 三宅昭春 教授(機械工学科) 庵原久夫  
荒木 真 助手( ) 倉橋完充  
花田富二夫 助手( ) 南 明宏  
川崎義則 技官(実習工場係) 木下正作  
徳田 仁 事務官(寮務係) 西原孝一  
水室昭三 技官(教務係) 高細 探  
河村英司 (実習工場係)

## 工場見学

5月15日～16日 5M  
 (株)安川電機製作所・三菱化成工業  
 (株)黒崎工場・新日本製鐵(株)八幡製  
 鐵所・東陶機器(株)  
 5月30日 4E  
 (株)有明電機工業所  
 5月31日～6月1日 5A  
 福岡銀行本店・(株)竹中工務店建設  
 現場・福岡国際センター・福岡市  
 美術館・福岡市民会館

## 編集後記

○本号より、一頁の字数を減じ、活字を大きくした。読み易い「高専だより」をめざしての第一歩と想っている。皆さんの御助言と御批判を賜りたい。  
 ○今年は定年制施行の最初の年に当り4名の教授、5名の職員が定年を迎え本校を去られた。退官された方々の御多幸と御健康を祈り、新任教官の御活躍を期待する。  
 ○オリエンテーションを終えての学生の感想文は、今号ではスペースの都合で1名分を掲載した。  
 ○今春は、56年以後天候に恵れず行われなかった新入生観迎遠足が実施出来、明るいスタートとなった。  
 教務主事